

北海道新幹線開業に向けた噴火湾横断クルーズの実施について

北海道新幹線× nittan 地域戦略会議
日本データサービス株式会社

北海道新幹線の開業が来年3月に迫り、また平成42年には札幌に至る北回りルートの開業が予定されています。これにより「本州～函館～ニセコ～小樽～札幌」を軸とした観光振興に向けた期待が高まる一方で、新幹線が運行しない南回りルートについては、新幹線と在来線の乗換の増加や特急の減便など交通サービス水準が大幅に低下されることも危惧されます。

そこで、北海道新幹線× nittan 地域戦略会議では、来年3月の北海道新幹線開業に向け、沿線ではない胆振・日高(日胆：にったん)エリアへも波及効果をもたらすべく、観光振興を軸とした様々な取組を行っています。その取組の一環として、日胆エリアでの長期滞在型旅行商品の造成を目指し、8月5日(水)～8日(土)の3泊4日の日程で、旅行代理店の商品造成担当者を招聘し、モニターツアーを実施しました。

日胆エリアは、西端の豊浦町から東端のえりも町まで、太平洋沿いに約250km続く広大なエリアです。新函館北斗駅からの長い移動時間が課題となっておりますが、この課題の解決策を検討するため移動と観光を融合させた新たな交通手段として、森港から室蘭港への噴火湾横断クルーズを試行実施しました。

この航路は、「^{しんらん}森蘭航路」と呼ばれ、明治初期に開拓史の手により建設された札幌から函館を結ぶ「札幌本道」の海上路として、明治5年から昭和3年まで旅客や貨物の運搬において活躍しました。「札幌本道」は、土木学会の選奨土木遺産にも登録されており、今回の取組は、歴史ロマンを今に伝える「森蘭航路」の再現となる点も注目されていました。さらに、噴火湾は、イルカ・ホエールウォッチングを楽しむことができるエリアでもあることから、今回のクルーザー運航は、単に移動時間の短縮という目的だけではなく、「歴史ある街道ルートの再現」と「イルカ・ホエールウォッチングを楽しめる」という“ここだけ”の魅力を持った高付加価値の観光資源を掘り起こし、新たな魅力としてPRしたいという狙いもありました。

噴火湾横断クルーズは全2回実施し、1回目は7月29日(水)にクルーザーのGPSに航路を登録することを目的として実施しました。報道関係者と当戦略会議関係者あわせて23人が乗船し、室蘭市のエンルムマ

リーナを出発。会場ではやや霧がかかっていたものの、カマイルカの群れやミンククジラに遭遇し、参加者から歓声が上がりました。



(一社) 室蘭観光協会事務局長・仲嶋憲一氏 撮影

航海は順調に進み、森港の沖合い5km地点で森漁業協同組合所属の漁船と合流、漁船の先導を受けながら安全な航路を確認・GPSへ登録し、森港へ入港しました。所要時間は当初の想定どおり片道約1時間40分となり、本番であるモニターツアーでの運航に向け手ごたえを感じながら、無事1回目の試験運航を終えました。

2回目となる8月5日(水)は、モニターツアーの行程の一部として、7社9名の旅行代理店の方々に乗船していただきました。1回目同様カマイルカに遭遇したほか、洋上からは駒ヶ岳をはじめとする山々の雄大な景色を見ることができ、参加者からは旅行商品化に向け前向きなご意見をいただくことができました。

全2回の運航を通じて、商品化への可能性と課題の両方が見えてきたところではありますが、北海道の海の観光を盛り上げるコンテンツの1つになるよう、当戦略会議としてもさらに検証・検討を進めていきたいと考えております。

最後に、今回のクルーザー運航に向けご尽力いただいた各関係機関の皆様にご場をお借りして厚く御礼を申し上げます。